

中齋塾 東京フォーラム
平成 26 年度 第 9 回講話

平成 26 年 10 月 11 日
於 湯島聖堂

おはようございます。私はいつもぎりぎりに聖堂に入りますが、今日は早く湯島聖堂に来ましたら、新年改まったような気分になりました。今回、初めてお見えになる方がいらっしゃると思いますので、場所が大丈夫かと思い、かつ御顔が分かるのは私 1 人でしたので、だったら早めに行って道案内人をしてほしいと思い早目に参りました。

中齋塾フォーラムがスタートして 7 年目

先程の猪瀬理事長の話とあわせて最初に申し上げますと、中齋塾フォーラムがスタートしたのが平成 19 年の 3 月 18 日でしたが、その前年 1 年間は会費を 1 年間取らないで実験をしてみました。そうしましたら、お出でいただく方も定着をしてきましたので、正式にスタートしても良いと思い、平成 19 年 3 月 18 日にスタートさせていただきました。石の上にも三年ですが、一回始めたら長く続けると良いと今も考えています。

3 月 18 日は非常に良い日だと思っております。ものの本によると龍神様の日らしいのですが、私の誕生日でございます。

理事長の「困った時にどうすればよいか」という話ですが、判断の感性がだんだん磨かれてくるように思います。

ふっと思い出しましたが、中齋塾フォーラムの前身で「亦楽会」という勉強会がありました。その中でずっと来ていただいた会員さんが「この間、結婚式に呼ばれて何も考えず氣楽に行き氣持ちよく飲んでいたら、氣の利いたことを言ってください、と急に指名されて頭が真っ白になった。早く、早くと言われて前に出て行ったけれど、マイクを持って、さて何を喋ろうかと思うが、何も出てこない。困ったと思っていたら、ふっと「利によりて行えば怨み多し」という言葉が出てきた。一言、口に出ると「利によりて行えば怨み多し」をどういう風に塾長が説明していたのかが浮かんで来て、その結婚式に合うような感じで講釈でき、喝采を浴びて無事に席に座れて良かった。あまり熱心に聞いてはいなかったけれど、ずっと頭の中に残るんですね」と、ずっと来て聞いていると役に立つなと思ったそうです。

電車での出来事

この間、よく利用する電車に乗りましたが、途中で特急が止まり暫く動かないでいたら、人身事故だというアナウンスが流れました。少しお腹が空いたので、駅ホームの売店で何か買おうと思い、車掌さんのいる一番後ろに行き「買い物がしたい」と言うと、「電車の外には出せません」と言います。「何故」と聞くと、「一人電車から降ろすと、みな出さなければいけないので、これは不公平になります」と言う。「私はお腹が空いていて、飢え死にはしないけど暴れるかもしれないから、売店に行って買いたい」と言っても、「駄目です」と言われた。「どうすればいいか」と言うと、「上司と相談してみます」と言い、上司に電話をかけ「OKが出ましたから、どうぞ」と言われました。そうしましたらドアは開けないで車掌のいる所から外に出て、尚且つ車掌がずっと付いてくる。「何故」と聞くと、「一人の人に特例を認めると全員公平になりませんから」と言う。でもその駅ホームには売店が無いので外に行かなければいけない。そうしたら他の駅員に話をして、その駅員は「私は電車に戻りますので、どうぞお客さんは、この駅員と話をして買いに行ってください」と言います。「はい、有難う」次に駅員との交渉です。駅員が「じゃあどうぞ出ていただいで結構です。もう戻りませんね」と言うから「なに言っているの、また戻って中に入るよ」と。「お戻りになるのなら特急料金をまたお支払いください」と言う。「勝手に電車を止めて、お客がお腹を空かせて売店を探したら駅の中にないから、外のコンビニで買おうと思っているのに、それは駄目なのか」と聞くと「駄目です、不公平です」と。若い子でしてね、ずっと押し問答したが埒があかない。不平等、不公平ここは社会主義国家かと思いましたが、若い子なので正義感に溢れていますので「ちょっと別の人と話しをさせてよ」と言っても「駄目です。私が担当です」と言い、どうにも困ったなと思っていたら、奥の方に駅員がいる。人身事故で騒いでいる中で暇そうにしている年寄りがいたから呼んで「お腹が空いているので、外の売店に買いに行きたい」と言うと「切符を見せてください」と言い、切符を見せると「どうぞ出てください」と。そうしたら若い駅員は凄いい顔して睨んでいましたが「どうも有難う」と言い、外へ出て食べ物を買って帰って来ました。

色々な電車はたくさんあるけれども、あの私鉄会社は得てしてそういうもので、あの私鉄会社ほどお客のことを考えない、自分達にとって都合のいい経営をしている会社は、あの私鉄をおいて他には無いと話していたら、聞いていたホテルのフロントマンが吹き出してしまった。「そんなにビックリしたの」と言うと、「はい」と言ったので「じゃあ、ついでだから、あなたの所にも言ってあげるとね、ここのホテルに置いてあった雑誌を見たら、優良で評判のビジネスホテル 20 箇所ぐらいを特集していたが、私は全部そのホテルをまわったが、ここのホテルは、その中でもまあまあ良かったよ」と言ったら、「ほっとしました」と言っていました。

はっきり分かるのは官僚、政治家。ここらへんが硬直していると、日本は資本主義の仮面を被った社会主義国家であるという感じがします。国会図書館に行つて物を探すと、こ

こは社会主義国家かと思うようなことをやってくれます。

紹介書籍

『佐藤一斎 一日一言「言志四録」を読む』渡邊五郎三郎監修 到知出版社

テーマ「忙」

『佐藤一斎 一日一言「言志四録」を読む』の中で、渡邊五郎三郎先生が佐藤一斎の「忙」について説明をしています。

・皆さんは、一日忙しいですか？

よく考えてみると、やらないで良いことをいっぱいやっている。本当に自分にとって必要なこと、大事なことは一つか二つではないか。自分一人で忙しがっている。後はやらなくたって良い、人に任せれば良いものばかりじゃないかと佐藤一斎が言っておりまして、それを五郎三郎先生が解釈をしております。

それから、どうしてもいいと思うものをたくさん持たない。自分がこの世に生まれた。この世の中で一つだけ、これをやらなきゃいかんと思うものが見つかっている人は、あんまり忙しくしなさんなという話です。

東京フォーラムで使っています時間を知らせる小さな鐘。鐘の音は、穢れを払うといいます。

今日のテーマである「忙」、心がせわしいと書きます。心がせわしいと、ついあちこちで失敗します。大事だなと思ったら、気持ちを落ち着けてゆっくり考えて、ゆったり行動するのが良いでしょう。それが急いでいますと、この鐘を鳴らしてみますが（乱れた鐘の音）これでは気持ちが落ち着きません。今日は実に楽しいなと思って鐘を鳴らしてみてください。（良い音が出る）

・私はいつも忙しいと思う方はおられますか？

いつも忙しいと思っている人は、心が滅ぶので早死にしてしまいます。忙しいと思ったら、意識して落ち着いてゆっくりいきましょう。

こう言いますけれどね、私はよく間違えます。この間、新幹線に乗る時間が迫っていたので急いでタッタッと階段を上がって、目の前に新幹線が止まっているので飛び乗って気がつくと、行先は反対方向でした。

また家内と新幹線に乗った時ですが、予定していた時間より早めにホームに着いたので、ひと電車早い新幹線に乗ったのですが、席がない。それならば、やはり予定通りの電車に乗ろうということになり、途中で降りました。そうしましたら美味しいものや色々な物も買えてゆっくり座ってこれましたので、良かったなと思いました。

遠野市にて…

岩手県遠野市に行って来ました。いろいろ回ってきた中で、以前に猪瀬理事長から紹介していただき、季刊誌『知足』に投稿された NPO 法人へも行って来ました。今回は、いろいろな場所を見て来ましたし、お話を聞かせて貰いました。

遠野市は東日本大震災で被災する数年前から、近隣の市町村と話をして協議会を立ち上げていたそうです。

遠野市は、応援部隊が新幹線や高速道路を使って来た時に支援拠点をつくり、ここで仕分けをする。仕分けをして被災地に運ぶ被災地も 50 キロ圏内の中に入る。だいたい 1 時間ぐらいで何とか行けますということでした。

この時に凄い話をしてくれたなと思ったのは、遠野市の市長です。応援の自衛隊総監が「遠野市が仕分けの基地、拠点基地を作っておいてくれたおかげで被災者を助けるのが一日分助かりました」と。ご存知のとおり、人を救助するには三日間がポイントだといいますから、遠野市がもし拠点を作っていなければ、もっと多くの人々が亡くなっていたと実感できました。

今日の「忙」に直結をしてきます。この市長は、自分がこの世でやらねばならんということを実感している、そういう人だなと感じました。

論語でいけば「五十にして天命を知る」です。遠野市の市長は、岩手県の元職員だったそうで、市長選に立候補をして当選した。市長になってやるべきことを調べていくうちに、私がするべきことは、これだと分かったそうです。

遠野市の歴史を調べると、大きな津波が襲ってきて、たくさんの方が死んでいる。津波石というものが 370 個置いてあるそうです。「ここまで津波が来た」と知らせる津波石が 370 個ある。必ずここまで大津波が来て大勢の人が亡くなる可能性があるのなら、だったら遠野市は何をすべきか。

その時には、多くの救援物資が来るはずだから、遠野市で受け入れよう。ボランティアも来るから、ここで受け入れよう。そのためには広い土地を提供できるようにしようと考え準備を始めました。そしたら県も国も、遠野市は海がないので大丈夫だから余計なことをしなさんなど、官僚の横やりが入りました。

「ここで事前に訓練をやりたい」と申し出ても、なかなか受け入れて貰えませんでした。それでも色々と回りを口説いていきました。「必ず大津波がきて、人がたくさん死ぬこ

とが目に見えているので、事前訓練をしたい」ということを自衛隊総監が聞いて、自衛隊は訓練費1億円を計上したそうです。1万8千人を動員して大規模な訓練をおこなったそうです。大規模な訓練をして努力をしていたら、その後すぐ大津波が起きた。だから、どこぞやらで想定外、想定外と言っていた者と比べると、遠野市は正反対の動きをしています。

私は聞いていてハッと思いました。天命を知って生まれてきて、この人は大津波が来たから大勢の命を救うために市長になった人、後世そう言われる人間だと感じました。五十代にして天命を知り必死になって対応した。今は、その後始末の最中ですがけれども、やっぱり話は聞いてみるものだなと感じました。

想定外、想定外ばかりの話が、ここでは想定内の話で計画を進めていて1万8千人を動員して大規模訓練をし、そのために近隣の市町村と協議会を組んで、県を口説いて、国を口説いて、準備万端に整えたところに大津波が襲ってきた。やっぱり何処かに人間はやるべきことを見つけるのだと思います。

一生の間に、私はこれをやるために生まれてきたと、思うものにぶつかれば望外の幸せではないでしょうか。でも20~30代では中々ぶつからないみたいです。今日のテレビだったかな、10代でノーベル平和賞を受賞したパキスタン人のマララさん。あの子はもう10代でそういう天命を知ったと思います。人間は、どこかで私の仕事はこれだと思い、決めるものがあります。年齢は関係なく出てくるのだらうと思います。

遠野市に行きました時、スーパーマイヤの大船渡店と気仙沼にも行って来ました。

気仙沼に行きましたら、山を崩して土砂を運ぶのに普通はダンプで運びますが、巨大な鉄パイプを造って24時間パイプで土砂を流し込み、それで高い盛り土をしていました。たいしたものだなと思いました。ものすごく賑やかで活気づいているように見えたが、私は奥尻島を思い出しました。以前、奥尻島は復興したということが報道されたので見に行きましたら、若者がいなくなって閑散としていました。

気仙沼は今、復興しているように見えるけれども、復興工事が終わったら閑散としてしまうだろうかと感じました。

基本哲学—知足—

この間、猪瀬理事長と一緒に渡邊五郎三郎先生がいらっしゃる鎌倉へ御邪魔しました。季刊誌『知足』の正月号でお話を載せていただくためのインタビューをしました。その先生から資料が送られてきました。今、九十六歳ですね。背筋がピーンとしておられる。

その先生から送られてきた資料の中に、知足についての説明を櫻井良子さんがしていましたので、御紹介します。

「武士道というものは、武士のものであり、庶民とは関係なかったかといいますとそんなことはありません。それを教えてくれるのが、江戸の終わりから明治にかけて日本を訪れた外国の人々です。彼らは驚嘆しました。日本人の礼儀正しさ誠実さ、何があっても盗まず本当に他人に対して優しい心遣いをみせること。また清潔だったことも彼らの驚きの対象でした。自分の身も家も道も清潔にして、他人のものは何も盗まない、嘘はつかない。そして自分が今持っている物に満足して、幸せそうな笑顔を浮かべて生きている。この微笑を浮かべた表情というものは、男も女も老いも若きも豊かな人も貧乏な人も皆同じだった」と書いています。いろいろな方が、結構こういうことを書きます。

「本国に対して我々は文明国家と自負していたけれども日本という東洋の島国が、もしかすると我々より文化度は上ではないかと思う」というようなことを宣教師さん達が本国に何度も書いて送っていたそうです。それを櫻井良子さんが分かりやすい文章でよく書いたなと思いました。

自分の境遇を真正面から受け止めて、その中で力を尽くして生きることを是とする。この「足るを知る心」をよく書いてくれたと思います。この足るを知る心という武士の極めて潔い生き方が庶民にまで行き渡っていたのであろうと思います。

この文章を引用して季刊誌『知足』の中に載せていきます。それを更に私が引用したわけです。

笑顔が良い知足の人なら、微笑みが良いと思います。周りを見渡して微笑みを浮かべている観音様みたいな顔をしていれば合格。同じ笑顔でも大分違いますから。

今日は櫻井良子さんの説明で知足は終わりにします。

恒例の質問

もう秋ですね、葉が一枚ヒラヒラと落ちる、それで天下の秋を感じる。日本人は、こういう心の動きがある。虫の鳴く声を聞いて、秋だなとか季節感を感じる脳の具合が外国の方と違うみたいですね。これはどうしてか。人として、そう作られているからとしか言いようがない。

- ・十日間ぐらいで嘘を比較的使わなかった人

リップサービスも嘘。例えば、誰かと今度一緒に食事でもしましょうと言って忘れてしまう。相手にすると声かけた方がお金を払うだろうと思っていて、いつ奢ってくれるのかと思っていたら相手は忘れていた。やはり嘘になります。とにかく嘘をつかないことが必要です。

・ここ十日間「有難う」と言い、「有難う」と言われることが多かったなと思う人
はい、有難うございます。何度も言いますが、年配になればなるほど有難うと言われることが少なくなります。そういう時、高齢者は財布の紐をゆるめて有難うと言われるようにすれば、それでも有難うです。いずれにしても有難うと言うことは誰でも言える。有難うと言われるのは、けっこう努力をしないとされませんか、どうぞ頑張ってください。

・この十日間、健康法を何か実践していた人
今、私が通っている足専門のお医者さんから、アキレス腱が少し固まってきたから伸ばすようにと言われていました。アキレス腱を伸ばすのに、壁に手をつけてストレッチで足を伸ばすことをやっています。

健康法は何でもいいです。国や県が薦めてくれる健康法をおやりになると良いでしょう。たぶん地域によって何かしらあるでしょう。

私の母親は八十代ぐらいから夜寝る前にお腹を擦る動きと、寝たままで息をゆっくり吐いて吸う呼吸法をしていました。それだけでも立派な健康法です。寝る前に騙されたと思うのではなく、信じて呼吸法をやってみてください。

・明日を過去形でイメージできた人
明日楽しいことがあると思ったら、楽しいことを考えて明日を過去形でイメージしますよね。楽しかったなと思える様なことが眠る寸前に浮かべば、それは成功です。
この説明は、大金持ちになる方法という本に書いてあります。嘘臭いと思う人もいますから、小金持ちに変えたら、どうでしょう。小金持ちぐらいなら良いでしょう。

論語の視点

子路十三

【四】樊遲 稼を学ばんことを請う。子曰く、吾 老農に如かずと。圃を為ることを学ばんと請う。曰く、吾 老圃に如かずと。樊遲 出づ。子曰く、小人なるかな樊須や。上礼を好めば、則ち民 敢て敬せざる事莫く、上 義を好めば、則ち民 敢て服せざる事莫く、上 信を好めば、則ち民 敢て情を用いざる事莫し。夫れ是の如くならば、則ち四方の民、其の子を襁負して至らん。焉んぞ稼を用いんと。

孔子から見て樊遲は 36 歳若い弟子です。樊遲が 30 代の頃、孔子は晩年ですね。樊遲が孔子に「農作業の仕方を教えてください」と言いました。孔子は「私は老農家に

は及ばない」と答えたら、今度は「野菜畑の作りかたを教えてください」と言いました。「私は農家ではないので分からない」と孔子は答えました。

樊遲がなぜ聞いたか。然るべきポストに就いたら農民を指導しなくてはいけない。農民を指導するためには農作業の仕方を覚えておかないと出来ない。上に立つ者は農家のやることもしっかり自分で覚えて教えようと思うから聞いた訳です。動機は悪くありません。

ところが孔子は就活の先生ですから、生徒は孔子の塾に通って、どここの国の首相や大臣をやりたいので指導してくださいと言い、教わりに行く。

孔子は然るべきポストに就いたらばと具体的に教えます。樊遲に対しても言っていますが、樊遲がちょっと理解力不足だから、孔子に農作業の仕方を教わりたいと言う。孔子は聞くものが違うんじゃないのかと思うわけです。それは専門の人に教えて貰って、農家のことを考えるのであれば、農民から税金をいくら取ればいいのか、飢饉の時にはどう対策をとればいいのか、然るべきポストに就いたら、国民を指導するとき国家に対して国民としての義務や具体的なやり方を教える。

「樊遲出づ。子曰く、小人なるかな樊須や。」

樊遲が先生はちゃんと教えてくれないとぶつぶつ言いながら出て行ったら、孔子は「樊須はまだ分かっていないね」と言いました。

「上 礼を好めば、則ち民 敢て敬せざる事莫く、上 義を好めば、則ち民 敢て服せざる事莫く、上 信を好めば、則ち民 敢て情を用いざる事莫し。」

政治家など上に立つ人間が、礼を大切にすれば国民は尊敬するであろう。それから上に立つ人間が、正義を好めば国民は皆いうことを聞く。上の人間が信頼信用を好めば国民は誠実に対応するであろう。

「夫れ是の如くならば、則ち四方の民、其の子を襁負して至らん。」

然るべきポストに樊遲が就いて、そのように指導すれば四方八方から、赤ん坊を背負いながらも樊遲を慕ってやって来る。だから農作業の具体的な知識は、今、覚えることではなく、一生懸命に仕事をしている人達に、どうすれば安定した生活が与えられるかを考えなさい。

そう孔子は樊遲に教えたかったという話です。

これを現代に変えます。先程の駅員さん、車掌さんたちは経営者たちの顔を見て、お客様に対応をする。あそこの自動券売機では、明日の分の特急券を買おうと思っても買えない。窓口でしか買えないので、行列で並ばないと現金でしか買えない。駅員に言っても「うちはそういう機械です」と言われてしまいます。「上に改善して欲しいと言ってくださいね」

と言っても「はい、お伝えします」と言いますが、改善されたためしが無い。お客のことをまるで考えていない。ピストル堤と強盗慶太という間柄が、あの私鉄線にもあれば良かったのでしょう。西武と東急のようなライバルは必要ですね。民間でもライバルがあれば少しは切磋琢磨して、まともになるのではないのでしょうか。

民間でもトップのやり方を見て、だんだん下までいきますから、気を付けなければいけません。

時事評論

縦軸、歴史的にものを見る。判断するときは本質・大局・歴史で見ると良いでしょう。いろいろな記事を見たときに、本質は何なのか、狙いは何なのかを考え、どんどん掘り下げる。

それから大局。いろいろな立場になってものを考える。従いまして歴史的にどうなっているのかを見る。本質は何かをえぐっていく。大局では、いろいろな立場の情報を見る。

新聞で見たものを申しますと、色々なところから情報が集まり、溜まって融和点に達したときに、融合し繋がり合う。いろいろな情報と情報が繋がった時に、時代の潮流がしっかり見えます。

時代の潮流が見えると、今年の後半はどうなるか、来年はどうなるかという見方や、ものの判断ができる。そう考えながらお聞きください。

今日の日経新聞に出ていましたが、国の収入を好転させるために75歳以上の人は保険料を値上げします。170万人いるといます。

国の治世者がこれでは不公平であると考えて、高齢者で月収121万円以上の人に対しては高所得者と認めて、現状保険料9万7千円を11万2千円に値上げをします。1万5千円上げる。今度は145万円まで上限を上げようとしています。

恒例の質問にあった小金持ちの解釈は、月収121万円以上の人を145万円以上にしますということが小金持ちの解釈です。

それからもう一つ、来年の税金の話をちょっと入れます。

渡部昇一さんの本で、ヨーロッパの税金について色々調べたのを見ました。キリスト教は、教会で税金のようなものを徴収していました。キリスト教の教会では1%を目標とし、それ以上は取ってはいけないとしていたそうです。東洋も西洋も1%の税金が理想であると考えていたのでしょう。

国が減ぶときは苛税（かぜい）である。そのときは減ぶ。渡部昇一さん曰く、イギリス

が覇権国家でなくなった時は、98%の税金を掛けていた。

日本が破綻を起こしたのは、一番最近の戦争をした時、日本は92%の税金を高額所得者に掛けた。富裕税です。新聞を見ていると、時々ちらちらと富裕税という言葉が出ます。それは92%を意識している。現在の日本の税金は、いくら取られているでしょう。

自分がいくら取られているかは別として、現在、高額所得者は50%です。所得税が40%、住民税が10%。これが来年は55%になります。

金持ちの話なんていうのは、あんまり入ってこないとは思いますが、来年は年収4536万円。さっきの小金持ち月収145万円以上と比べると、こっちは中金持ちになるのかな。4536万円以上の年収の人間に対しては55%の税金を取る。その他の消費税、エトセトラを考えれば6割。稼いだ分の6割、中金持ちは金を取られるということになっています。

さてそうすると、日本は高いのか、安いのか、取り過ぎか、取り過ぎではないのか、国は減ぶのか、減ばないのか。

学者はその国が3割以上の税金を取ると苛税だといいます。日本でいけば、むしろ旗が立つ状態です。ところが中金持ち以上だから、まだそんなバタバタはしてこない。ということで学問的な裏付け、外国の事例ではこうなっていて、現在の日本の税制はこうであるけれど、皆さんいかがお考えでしょうかと論点を絞ってみましょう。こちら辺で情報を取ったときに、ひとつひとつの物を当てはめて見ると何かに気がつきます。

これは今日の新聞で「北海道電力、来月再値上げ」15%値上げです。それから「地方創生5分野を重点とする」色々なことを言いますね。

よく読んでみると、「長期ビジョンでは50年後に人口1億人程度を維持するという目標に向けて」と書いてある。嘘つきだと感じます。何故なら、前提条件1億人など維持できっこない。新聞に前提条件という言葉が書いてありますと、前提条件がまずクリア出来るか出来ないかではなく、出来るという書き方をしていますから、新聞が書くものは、半分は間違いだと思いながら読んだほうが良いと思います。

ずっと見ますと、値上げ。それから値上げの他に、支出。「国の支出を止めます」ということが重なってくると国の経済、収支を好転させようという思惑がある。または、そういうポーズを取っていると見える。

それから「原油価格が急落」という記事もありました。これも今日の日経新聞です。それから今日の新聞で「イオンが税込みの価格。小型スーパー、マイバスケット25店舗以上で税込価格に戻す実験を始めた」とあります。これは消費税10%の対応に向けての動きを始めている。民間側はお金に関するものでこういう動き方をしています。

国は消費税10%を上げるために色々な手をせっせと打っている。消費税を上げた後は、もう経済、真逆さまということが見えてきている。これは国がのた打ち回っていて、何とか破裂しないようにやっているという事です。

イスラム国が武器を良い値で買い取っている。酷いのは、神田の古書店でイスラム国の戦闘員募集の張り紙を見て、日本の学生が参加したいというニュースがありました。何を考えているのだろうと思う。

国外の情報をいくつも眺めてみると、日本と他の国との繋がりには予想以上に深くなっていると感じます。

戦争と平和は繰り返しています。だいたい日本の歴史でも戦争があると次は平和ですが、平和があると次は戦争です。その繰り返しをやっていますから、もう平和な時代が終わって、今、戦争に入りつつあるように感じます。ちょっとした何かのきっかけで戦争が始まる可能性があります。日本のドラマでも何度も戦争ものを扱った番組を繰り返し流しています。こういう時代がまた来るかもしれないから、そろそろ有事に対しての対応をお考えくださいということでしょう。

新聞で読むところは、いくつも情報を持ってきて、自分なりに当てはめていくと時代の流れが出てくる。見えてくる時のきっかけは、本質は何かをずっと掘り下げていけば、この狙いは何なのかの答えが出てくるでしょう。

時間が参りましたので、終了にいたします。有難うございました。